



碧南ロータリークラブ週報

第2363回例会 平成19年5月30日(水)

● 会長 杉浦健次 ● 幹事 石川春久 ● 会場監督(SAA) 棚田道和

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聡之

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

LEAD THE WAY

率先しよう

できるひとが
できるときに
できるところで



● 斉唱

ロータリーソング「手に手つないで」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子



杉浦健次会長

会長挨拶

先週の例会後に行われました創立50周年正副委員長会議に於いて平成20年9月27日(土)開催予定の式典並びに祝宴の会場は衣浦グランドホテルと決定いたしました。また、来年4月開館の「藤井達吉現代美術館」へ寄贈予定の「藤井達吉翁像」の彫刻を名古屋芸術大学美術学部長神戸峰男先生に依頼しておりましたが、本日、新美孝実行委員長、樺山善久記念事業委員長、私との三人にて委託契約をして参りましたのでご報告申し上げます。また、過日旭日雙光章を受賞されました新美孝氏の祝賀会が碧南RC会長も発起人となり、来る6月30日(土)午前11時より碧南商工会議所にて行われます。本日RC会員の皆様にはご案内をメールボックスにお入れしましたので宜しくご出席賜ります様お願い申し上げます。さて、本日は衣東消防局の田川直樹消防次長に「私の消防人生」と題して卓話をお願いいたしました。現在の碧南市消防団長は新美真司会員、副団長は角谷信二会員であることは皆様ご承知の通りでございます。そして、碧南RC会員には樺山善久氏、鈴木敏弘氏、石川春久氏、鈴木並生氏、石橋嘉彦氏そして私の六人の団長経験者がございます。私は昭和62~63年度に団長を拝命いたしており、その時から田川次長様とは消防団の活動、運営等ご指導いただいたところでございます。後ほどご自分で自己紹介されると思いますが本年4月より現職に就かれる前は碧南消防署長をお務めになり碧南消防の生え抜きの方でございます。平成15年に碧南市・高浜市・安城市・刈谷市・知立市の五市消防本部が一体となり「衣浦東部広域連合消防局」が誕生したわけであります。四年経過の現在も解決すべき諸問題も多かろうと思いますが今後の活躍をご期待申し上げたいと存じます。本日は統計数字にとらわれない生の消防経験をお聞かせ頂けるものと思っておりますのでご静聴の程お願い申し上げます。

幹事報告

他クラブの例会等の変更は幹事報告の通りです。

副幹事報告

次年度クラブ協議会を本日例会終了後開催



石川春久幹事



石橋嘉彦副幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 80 名（内出席免除者 13 名）出席者 66 名	
出席対象者 58/67 名	出席率 86.57%
欠席者 14 名（病欠者 0 名）	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 杉浦 健次君 本日の卓話の講師に田川直樹衣浦東部広域連合消防局消防次長様にお越しを頂きました。ありがとうございます。
- 石川 春久君 消防団時代、大変お世話になった田川さん、心より歓迎します。
- 小笠原良治君 麦秋！！今週末より麦の収穫がはじまります。さてさて本年度の品質はどうか？楽しみであり、不安であります。
- 長田 銑司君 東京より出版社、カメラマン、帝国ホテルのシェフの皆さんが来て下さり、4冊目の専門書の写真撮影が終わりました。8月には出版出来るようです。
- 新美 真司君 鈴木昭洋さんにお世話になりました。

〈雑誌委員会〉

- 青木稔会員 ロータリー歌壇入選（ロータリーの友6月号⑮ページ）
金の波銀の波寄る昼下がり 島はのどけさばかりなりけり

卓 話

「私の消防人生」

衣浦東部消防局 消防次長 田川直樹氏

昨年までは碧南消防署長の立場で皆様には大変お世話になりありがとうございました。また、日頃は消防行政の各般にわたりご理解、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。広域連合も発足5年目となります。402名の職員で管内住民の生命、身体、財産を守るため努力させて頂いております。さて、本日のタイトルを「私の消防人生」としたのは、自分の人生を振り返ってみて、これしかないと思ったからです。高校時代から消防官になりたいとは思っていませんでした。一日おきに休み、火事がなければ暇なところと聞いて、ひょんなことから、消防署に入る事ができました。が、入るといきなり消防学校へ6ヶ月、基本訓練の繰り返しは厳しく、消防のいろはを教えられました。「雨にも負けず 風にも負けず 暑さにも負けず いやな教官にも負けず」プロとしての精神力を叩き込まれました。今までどうして頑張れたのかと振り返ってみますと、署に入ってから経験した仕事上の失敗から、まず「準備することの大切さ」を学びました。35年位前、署の上に望楼という建物があり、全面ガラス張り、昼間の晴天時にははるか遠くまで見渡せる。消防署に入って3年目の夜間、望楼勤務で棚尾橋の近くで煙が上がっているのを発見。火災の連絡をして消防車に飛び乗り出動。行けども行けども火事が見つからない。実は矢作川を越えて対岸の西尾の火事だったのです。昼間と違って見通し、望楼から見る距離、目標となる建物の確認が出来難かった。その失敗から、夜遅くまで仕事をしている工場などを目印に記憶し地理調査。非番日には地図片手に消火栓、消防水槽の位置、公共施設の場所、大きな工場など自分の足で見て回りました。管内情勢の把握こそが第一歩です。また、消防の動きは迅速です。火災という一刻を争う災害が相手の仕事であるから当然ですが、動きが速いのは災害の時だけではありません。食事、トイレ、風呂も早い。宴会での盛り上がりも早い。「災害に備える」という意味では非常によい事であると先輩から教わりました。入浴中出動ベルが鳴り、乗り遅れて火事現場に行けず上司に叱られた事が1度だけありました。濡れた身体に下着をつけるのは困難、素っ裸でズボンをはいて、上着を手を持って消防車に飛び



乗り、乗ってから上着、防火服を着装して出動よし、先輩に隠れて教えて頂きました。次に火事現場での失敗です。上から梁が落ちてきて肩にあたり倒れた、瓦が当たり脳しんとうを起こしたという体験があります。建物が燃えると上から物が落ちてくる。最近、神戸名古屋で消防職員が殉職しておりますが、中に入る時は瓦を落としてから入りなさいというのも先輩から教えて頂きました。また、一本20m（太さ65ミリと50ミリ、昔はホウキンで重さ10kg、水を20m通すと80kgになる。現在はアルミで軽い）のホースをつないで伸ばした時、ホースが絡んでしまって放水できませんでした。私たちにとってホースから流れ出る水は命の水です。火は生きものですので、風を見て消火していく。6月3日に碧南市のポンプ操法大会がありますが、これは実践に即して確実に水を吸い上げてホースにつないで放水して標的を落とす消防の基本的な操法です。見た目にはすごくかっこうのよい訓練もありますがホースを伸ばすのは簡単で訓練しなくてもできると思いついて入っている。最近では格好のいいことに目を奪われてレスキューに行きたいとか、オレンジ服が着たいとかう人が多いのですが、どんなに簡単でつまらない事でも、きちんとやり続ければ自信がつき皆が認めてくれ、自分の命を守る事もできる。「やり続けることの大切さ」を学びました。そして、消防に入ってから色々な方に助けて頂きました。消防学校に入校して教官に言われた事は「自分たちは人の命を救う前に自分を守らなければいけない。体力をつけ訓練をして人に感謝しなさい。」と教わりました。まったくそのとおりでという思いをしております。消防に入って、山本五十六の「やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば 人は動かず」という言葉を頂きました。その時は若かったのでよく理解できませんでしたが、幹部になると理解できるようになってまいりました。色々な人と言葉との出会い。自分ひとりだけの力では決してここまでこれなかった、「出会いを大切に」を学びました。衣浦東部広域連合は発足5年目になります。消防職員402名圏域50万3千人の生命身体財産を守っております。火災予防が行き届いて火災件数は減ってきておりますが出火原因は放火の疑いを除いてたばこ、こんろが多い。こんろというのはてんぷら油での火災。これが非常に多いです。法律で18年6月1日から新築住宅に、既存住宅は20年の5月31日までに火災報知器を設置して下さいという法律ができました。幸いにして、てんぷらを揚げていて、この火災報知器のおかげで大した火事にならなくて済んだという事例が多くあります。設置しなくても罰則はありませんが、備えあれば憂いなしで設置して頂ければ命が守れると思います。住宅火災で人が亡くなるのは全国で千人以上、毎年増えております。その中でも65歳以上の人が約6割です。火災報知器であれば早く発見できるのかなという思いがしております。衣東の救急出動は平成18年18,167件、17年より1.7%増えております。愛知県は1.2%減少しております。お願いしたいのは救急車の適正利用です。衣東は12署在ります。救急車は刈谷安城知立にはそれぞれ2台あり合計15台です。多い日には10~12件出動があります。急病11,211件の内、軽傷が6割です。交通事故は減少しておりますが、けがの程度は重くなっております。必要だと思ったときに119番して下さい。AEDにより大阪の高校生が助かっておりますし、碧南でも昨年2名の方がAEDにより社会復帰しておられます。愛知県で8件あって4名が救命されております。1分でも早く手当をすれば命が助かるということです。救急車の出動が多い。衣東では119番を受けてから現場に到着するのに5分30秒位。全国平均が6分30秒です。人工呼吸、心臓マッサージ、AEDが普及すれば命が守れると考えております。最近救急車を呼んだのに赤い車が来るということをよく聞きますが、先程申しましたように、救急車がよく使われ対応できない。消防車に乗っている人も救急の資格がありますので応急処置はできます。先に行き応急処置をして救急車と合流するという事ですのでご理解下さい。マンション、アパート等4階以上になると降ろせない、心臓停止によるAEDの使用、お医者さんとの連携、救急車と共に消防車も出動という事が必要となっております。救急車の依頼を受けて約7分位かかるという場合は消防車が出動します。救助の時にはウーウーウーとサイレンを鳴らすだけで、火事の時の様にサイレンのウー

ウーと鐘のカンカンカの両方を鳴らしません。貴重な時間を使わせて頂きこのようなお話をさせて頂けるのも、出会い、準備の大切さ、やり続けることの大切さがあるってやってこられたという思いがありますので、今後とも衣東消防、碧南消防署、碧南市消防団をよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内 平成19年6月13日(水)
卓話「離婚と年金分割」 弁護士 野田葉子氏